

学校図書館グループ研究会

グループ員：小木曾 笑子（池尻小学校） 小寺 真美子（稲野小学校）
太田 裕子（緑丘小学校） 林 美幸（笹原小学校）
高峰 良子（有岡小学校） 緒方 麻美（花里小学校）
大石 愛弓（昆陽里小学校） 上野 晴子（摂陽小学校）
坪木 麻侑子（鈴原小学校） 大石 田鶴子（伊丹特別支援学校）
担当指導主事：宮崎 大樹

キーワード：学校図書館 読書力を高める 読書活動

1 研究テーマ

「自ら本を手にする子どもを育てるために」

2 研究内容

進んで本を読む子どもを育てるために、研修内容を「教科書に掲載されている本について」と「子どもたちの読書力を高める読書活動について」の2つに分けて研究を行った。

(1) 教科書に掲載されている本について

国語科教科書に紹介されている本の輪読を行った。光村図書の「この本、読もう」（5年生、6年生）に紹介されている本を分担して読み、どのように子どもたちに手渡していくかということについて考えを交流した。高学年になるにつれて内容の難しい本が増えており、目の前の子どもたちが読んでい本とのギャップを感じた。子どもたちの読書力を高め、教科書に紹介されている本が読める子どもに育てるためには、どうしていけばよいかについて考えた。

(2) 子どもたちの読書力を高める読書活動について

① 全国学校図書館教育研究大会（神戸大会）報告

8月に行われた「全国学校図書館教育研究大会」の報告会を行った。大会で参加者に配布された「第28回よい絵本 読書活動ノート」を取り寄せ、その活用方法を協議した。各校で子どもたちに読ませたい本の「ブックリスト」を考える際に参考にしたい。

② 実践報告

光村図書第6学年2学期教材「詩を味わおう」について、単元へ子どもたちを誘う詩「あなたはひかり」で2学期の学級開きを行ったことや、作者が描く詩の世界をイメージ豊かに想像するために、「ぞうさん」をはじめとする同一作者の複数の詩を読むこと、「せんねんまんねん」が収められた詩集『まめつぶうた』の「はじめに」などの資料を子どもたちに手渡し、「せんねんまんねん」と重ねて読んでいくことなどの実践報告があった。それぞれが感じたことを交流し、「同じ詩を読んでも、それぞれが感じることもある。今の自分に必要なことを感じている。」ということを実感できる場をつくることの大切さなど、多くのことを学んだ。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① 学校図書館の蔵書として購入した教科書の「この本読もう」に紹介されている本の活用方法を考え、交流することができた。
- ② 読書週間の活動など各校で行われた読書活動を交流し、自校の読書活動や授業実践に活かすことができた。

(2) 課題

- ① 子どもたちが自分の読書生活を実感できる「読書記録」について検討の必要がある。
- ② 各校の特色を生かした学校図書館づくりについて具体化する必要がある。

③ 次年度は、具体的な単元を取り上げて研修を行い、授業実践に活かしていきたい。